



メディアが促す

人と科学の調和

「コロナ収束後の公共圏を考える」

昨今、一般向け科学雑誌が次々と撤退する中、多くの市民はどのように科学の情報を得ているのか、また政府とメディアと大学等の関係は時代とともにどのように変化し、政策に科学情報はどのように反映されているのか、様々な立場の科学関係者が議論する。

特に、海外メディアの視点とインターネット情報に焦点をあて、新型コロナウイルス収束後の公共圏の在り方を考える。

2020年

日時

7月16日(木)
13:00 - 17:00

主催

日本学術会議

参加費
無料

場所

日本学術会議講堂
(東京都港区六本木7-22-34)

お申込み

お申込フォーム
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

【登壇者】



山極 壽一

日本学術会議会長・京都大学総長



Dennis Normile

AAAS Science誌記者



大森 美香

脚本家 代表作「宇宙兄弟」、「あさが来た」



なかむらアサミ

サイボウズ(株)チームワーク総研シニアコンサルタント



喜連川 優

国立情報学研究所所長・東京大学教授



Peter Landers

The Wall Street Journal 東京支局長

【プログラム】

- 問題提起 山極 壽一
- 講演 1 Dennis Normile
Science誌の方針と最近の動向
- 講演 2 大森 美香
テレビ・映画の脚本の作り方
- 講演 3 なかむらアサミ
インターネット時代の情報発信と共有
- 講演 4 喜連川 優
情報通信技術から考える科学情報発信
- コメント Peter Landers
- パネル討論
科学者、ジャーナリスト、SNS関係者の討論